

【クラブ活動報告】

ソナック小学校(ギニアビサウ共和国)の給食プロジェクト

堺東ロータリークラブ

西アフリカにあるギニアビサウ共和国でソナック小中学校を運営しているNPO法人エスペランサとの出会いが14年前にあり、その事業の一つが里親制度でした。

当時、会員・クラブより20数名の子供たちの里親となり支援し現在に至っています。また、食事も満足に摂れず登校する子供も多く、法人理事長より「日本式の給食を提供したい」との相談があり、クラブとして支援することとしました。

現地での食糧事情は、なかなか厳しく、校長と話し合い、ささやかでも週1回「日本式給食」を始めることになり、全校生徒250名、週1回、向う10ヶ月の事業がスタートしました。「日本式給食」と言っても、同じものを提供するだけで教室のみならずグランドの木陰等各々好きな場所で食べています。日本との大きな違いです。

また、「給食」と言う文化がなく、この「日本式給食」を提供することで子どもたちの健康を守ることが出来、他の学校運営者のお手本となることを期待しています。



NPO法人 エスペランサ [ギニアビサウ共和国支援の会]

2003年10月に、首都「ビサウ市」に「ソナック小学校」を開校しました。開校式には大使館や国連関係者が出席。2009年10月に中学校を開校しました。

ギニアビサウ共和国の就学率は25%と極めて低く、学校不足が深刻。教員のストが頻発している中、ソナック小学校では約240人、中学校では約80人の生徒が学んでいます。貧困から授業料を払えず学校へ行けない子供たちに就学・教育の機会を提供しています。

里親制度

1998年のクーデターにより、600人の戦争孤児が生まれ、マラリアに罹っても病院へ行って治療することができない状況で、2001年から日本で里親制度を導入。2003年のソナック小学校開校以降、貧困から学校で勉強することもできない子供たちに対する支援も開始しました。現在は中学校の生徒まで対象範囲を広げ、約200人の子供たちの支援を行っています。

<https://9447425785.amebaownd.com/>